図書案内

2024年　11月号

古典文学

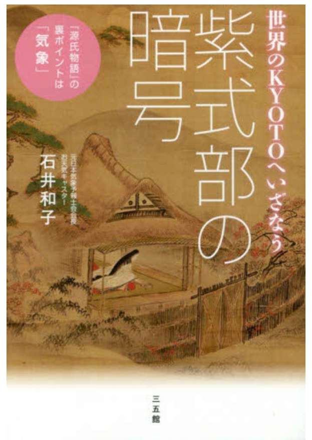
駅前の銀杏が実を落とし、冬の訪れを予感させる季節となりました。今月のテーマは「古典文学」です。古典作品で語られるのは、豊かな自然、人間関係の悩み、揺れる恋模様、、、時代は違えど同じ人間社会に生きた人々の苦悩や感性が、現代の私たちの生き方に何かヒントを与えてくれるかもしれません。くれぐれも、本に夢中で銀杏を踏まぬよう気をつけてくださいね。

『源氏物語解剖図鑑』／佐藤晃子

みなさんは源氏物語を読んだことがありますか？源氏物語は 54 帖もありとても長く、登場人物は 400 人を超えています。これを聞いて難しそうだと思って読んだことがない人、また源氏物語を全て読み切れていない人、よくわからない人、詳しく知りたい人もいるのではないでしょうか。この本ではストーリーや見所、平安人の暮らしや風習、文化や信仰、時代背景などが分かりやすく徹底解説されており、源氏物語が丸ごとわかります。また猫のイラストで見ていて面白いです。これであなたも源氏物語マスターになれるでしょう！

雅な遊びも実は熾烈な権力争い

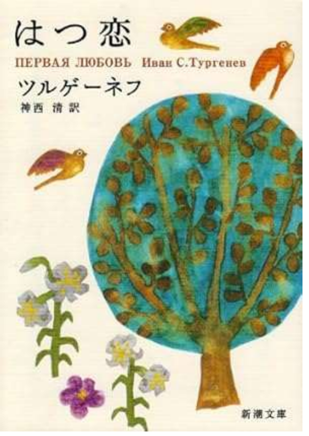
『紫式部の暗号』／石井和子



大河ドラマの影響もあり、注目を集めている紫式部の『源氏物語』。源氏物語は日本古典文学の最高傑作ともいわれ、世界中の多くの人に読まれ続けています。そんな源氏物語を気象の観点から見つめる本書は当時の人々も今の私たちと同じように桜を見て春を感じ、梅雨明けはまだかとうずうずし、台風が来ると秋が近づいてきたのだと思い、冬の寒さに凍えていたのだということを実感させてくれます。同時に紫式部の観察能力や描写能力の高さにも驚かされ、最高傑作といわれる所以が見えてくると思います。源氏物語を読んだことがある人にはもちろん、ない人にもおすすめの一冊です。

私にはそれが、千年の時を超えて現代に届いた、紫式部からのメッセージにも思えるのです。

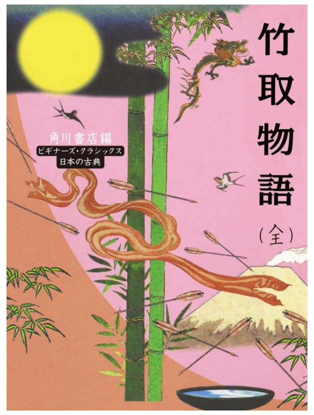
『はつ恋』／ツルゲーネフ



１６歳の少年が年上の女性に魅せられた初恋の物語。高飛車な彼女は、その美しさに寄り付く男たちを手玉に取って弄ぶ。恋の魔法にかかった少年には、そんなプライドの高さも魅力的に映った。しかしある時、衝撃的な事実に気付いてしまう。彼女が好意を向けるのは自分の実の父親なのだと。―
「はつ恋」というタイトルからは、好きな人に夢中で何も手につかないような、甘酸っぱい印象を受けますが、それ以上に、どこか不気味な迫力があるロシア文学作品です。

魅力の秘密はつまるところ、一切を成しうることにあるのではなくて、一切を成しうると考えることができるところに、あるのかもしれない。

『竹取物語（全）』／角川書店 編



「かぐや姫」として小さな頃から親しみ、日本の昔話といえば？と問うとみんなが思い浮かべるであろう竹取物語。しかし、実は、私たちの知っているようなロマンチックなものではなく、結婚したくないあまり、男たちに無理難題を叩きつけて、挙句の果てには生まれた場所へ帰る女の話なのです。そんなわがままなかぐや姫の全貌が古典の世界であるからこそストレスなく読むことができます。千年前に書かれた傑作を、楽しんで読める本です。

古代貴族の男女関係では、「見る」ことは特別な意味を持っていた。女性にとって、男性に姿を見られることは自分の魂を所有されることに等しかった。

古典の日の由来

１１月１日は何の日だか知っていますか？そう、古典の日です。ではなぜ 11 月１日は古典の日なのでしょうか。それは紫式部が自身の宮中での生活を記した『紫式部日記』の中で『源氏物語』に言及した最古の日付《1008 年（寛弘５年）11 月１日》に由来しています。古典の日は古典が優れた価値を持っていることを理解し、心のよりどころとして古典を広く根付かせ、国民が心豊かで文化的な活力ある生活を送れるようにとそれから千年後の 2008 年 11 月１日に古典の日宣言がされ、2012 年９月には法律で定められました。それ以来毎年 11 月に『古典の日朗読コンテスト』が京都で開催されています。朗読コンテストでは中学生、高校生、一般の各部門に分かれて全国から集まった人たちが一堂に会し『源氏物語』や『枕草子』の定められた範囲を朗読するそうです。教科書にも掲載されている話が多く範囲になっているので、みなさんもぜひ参加してみてはいかがでしょうか。

（参考 URL　https://hellokcb.or.jp/kotennohi/、https://laws.e-gov.go.jp/law/424AC1000000081）